

わたしたちの特別な水だから

石橋 由羽

筑前町立 三並小学校

わたしの一日は、冷たい水で顔をじゃぶじゃぶ洗うことから始まります。水は、朝起きてから夜ねるまで毎日たくさん使います。食器あらいやお米炊き、せんたくや花の水やり、お風呂など様々なことに使われています。もちろん、毎日、のどがかわいたときは、水をたくさん飲んでいきます。でも、宝満川浄化センターの見学に行くまで、わたしは水が大切だとあまり深く考えたことはありませんでした。そして、これまでの考えが大きく変わるようになりました。

水がきれいになるには、約二十時間かかります。いろいろな機械が使われていて、ちんでん池やろか池など様々な場所があります。このように、たくさんさんの時間と作業が必要です。また、びせい物の「活性君」も使われます。だからよけいに、長い時間がかかるということでした。さらに、浄化センターの見学でおどろいたことが三つありました。

一つは、きれいになった水が川に流されていることです。わたしたちの生活の中で出たよごれた水が、そのまま川に流されていたら、いやだなと思っていたりましたが、きれいになった水が川にもどされるのを見て安心しました。

二つは、わたしの家も浄化センターとつながっていることです。わたしの家で使ったよごれた水がどのように浄化センターまで行くのか、ふしぎに感じていました。だけど、下水管でつながっていることを知りました。でもそれは、わたしの家だけではなく、友だちの家も

もちろんつながっているのです、下水管を使えばいろんな友だちの家にも行けそうで、おもしろいなと思いました。

三つに、水をきれいにするためには薬が必要ですが、あまり使っていないということ。薬は使いすぎると体によくありません。そこで、浄化センターでは、「活性君」が使われている理由がわかりました。安心・安全な水にするための工夫がされていました。

浄化センターを見学して、水がきれいになるには、長い時間がかかることや、きれいになった水は、安心・安全に使える水にうまれ変わって、わたしたちの生活にもどされていることがわかりました。じゃぐちをひねったら、すぐに水が出てくるので、いつでもある物だし、なくなることもないと思いました。でも、浄化センターがあるから、いつでもきれいな水があることがわかりました。当たり前の水ではなく、とても特別な水なんだと思いました。

この見学を通して、水はどこから生まれるのか、もっと知りたくありませんでした。それと、水の使い方もっと上手に使おうと思いました。特別な水だから、大切に使えるようにしたいです。